

目標達成計画

作成日:令和 3 年 7 月 26 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	I-6	「身体拘束ゼロ」を目指し、常に職員が意識した行動をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の行動を制限することはしない。 ・センサーマット使用者に対し、モニタリング評価を行う。 ・スピーチロックに対し、職員が互いに気を付けるよう目標を持ち、見直しをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束について勉強会を月1回継続する。 ・工夫により、センサーマットを使用しない方法を検討する。 ・日頃より職員同士言葉使いを注意し合える関係を築く。 	12ヶ月
2	Ⅲ-33	重度化の早期発見、終末期をチーム、家族、主治医を交え話しあい、共有し、大切な時間としたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者家族に対し、終末期の在り方について意思確認し、ソレイユグループホームあらしまでできる事を説明する。 ・終末期を特別視せず早い段階から備え、落ち着いた対応ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異常の早期発見、主治医との連携を強化する。 ・看取り研修会に参加する。そして職員に伝達する。 ・その時期の予測をすると共に、主治医を交えてシミュレーションをする。 	12ヶ月
3	Ⅳ-43	排泄パターンを把握し、一人一人に合ったタイミングで声掛けを行い、排泄物品の使用量を減らしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・声掛けや声掛けが必要な利用者の排泄パターンについて全職員で話し合い、トイレ案内時間の統一を図る。 ・トイレ内で排泄ができるように意識を持ち、排泄用品が少なくなるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に合ったトイレ案内をする。 ・ベッド上でパッド交換するばかりでなく、トイレに案内する意識を持つ。 ・排泄物品の使用量を一覧表にし、毎月比較してみる。 	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。